

## CP カリキュラム・ポリシー

### 1. GProE カリキュラムのストラクチャ

グローバル・ディプロマプログラムは、九州大学経済学部の経済・経営学科および経済工学科が培ってきた独自の**専門教育を基盤**として展開される。その上で、内外の言語で開講される基本-専門科目群と演習を通じて、**経済経営に関する専門的知識や日本経済の歴史と現状を母語以外で伝え議論するコミュニケーション力を養う**。さらに**交換留学先では母語以外の言語で、経済のみならず歴史・地理・政治・社会等に関する知識を広く身につける**。最後にプログラムの締め括りとして、**母語以外の言語でゼミ論文を執筆する**。

### 2. GProE の年次進行

入学時のガイダンスその他で、入学者全員に GProE の意義・目的と選抜方法に関する説明を実施し、グローバル・マインド醸成の第一歩とするだけでなく、本 GProE プログラムへの進学者の促進を図る。

#### 【1 年次：プログラム推奨科目の履修と選抜試験の準備】

1 年次は、プログラム生選抜に向けての準備期間であり、プログラムが推奨する「文系ディシプリン科目(E,EJ)」「理系ディシプリン科目(E,EJ)」等、基幹教育科目群の取得を目指す。さらに 1 年次に設定された学部枠を活用して、留学生とグローバル志向の日本人学生がグローバル・マインドで学ぶ機会（GProE への誘い）を提供する。

#### 【2 年次：グローバル基本科目の履修と短期語学研修】

2 年次では、ミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学などの「基本科目」群(J)を受講しながら、プログラム独自の「**グローバル経済・経営基本科目**」(J)(「グローバル化とアジア」「EU 論基礎」など)を履修し、グローバルな経済や経営を見る眼を養う。同時に「**経済・経営英語科目**」(E/EJ 他)として、日本の経済・経営に関する英語の講義や JTW の英語による経済系科目を受講する。さらに、外国の大学等が提供するプログラムで「**短期語学-現地研修**」を行い、外国語でコミュニケーションを行うことの意義と必要性を実体験する。日本人をはじめとする英語を母語としない GProE 生はオーストラリアでホームステイを行いながら、クイーンズランド大学が提供する短期語学研修に参加する。GProE に参加している留学生は、九州大学の基幹教育が提供する各種プログラムを通じて日本語の研修と日本各地のビジネスその他の現場の視察を行い、日本の「ローカル」な社会経済の特質を学ぶ。

#### 【3-4 年次：GProE 専門科目の履修、交換留学、内外混在演習と GProE 論文の執筆】

3-4 年次では、経済・経営学科と経済工学科が提供する「専攻教育科目」と「演習」を履修しつつ、GProE 独自の以下の科目群を体系的に履修する。

(1) このうち「専攻教育科目」に関しては、同プログラムがリストアップする「**グロー**

**バル経済・経営専門科目**」(J)群を重点的に履修することになる。

- (2) 英語で書かれた経済の理論的・実践的な文献講読の能力を養うため**外国書講読(英語経済)**を履修する。また英語圏以外での活躍を目指す学生が現地語で書かれた新聞・雑誌などからナマの情報を得るなどの実践的能力を養うため、オプションとして中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語の他、グローバル経済分析にとって重要と考えられる**多様な言語での外国書講読の履修を推奨**する。
- (3) 「**Topics in Global Economy**」(E)を履修する。この科目は、経済学研究院が研究教育上連携している外国の主要大学から教員を招聘し、九州大学のキャンパスで開講される、各分野のホット 이슈に関する集中講義である。当該科目を受講することで、GProE 履修生は、専門を英語で学ぶことに慣れ、交換留学にむけた準備を進めることになる。
- (4) **グローバル経済特別講義(J)**を履修する。この科目は、グローバル化の現場で活躍する外部の講師を招聘して開講される特別講義である。グローバルな経済や経営が直面する諸問題を、経済学のツールを用いて具体的に把握し、それぞれの分野が直面する諸問題に挑戦する力を養う。
- (5) また経済学部教育の軸心となっている「**経済・経営学演習**」「**経済工学演習**」への参加に加えて、プログラム履修生は「**内外混在少人数演習(内外混在ゼミ)**」(E/J 他混在)を受講することになる。内外混在ゼミは日本人と留学生が一つの教室に混在するゼミで、日本人は英語で、留学生は母国語以外の言語(日本語または英語)で、それぞれ専門分野の報告とディスカッションを行うことになる。さらに**外国の交流先大学のゼミとのインターゼミ**や**グローバル経済経営の現場を現地調査するスタディツアー**を随時実施する。さらに同ゼミの指導教員は、留学に向けた各種の情報提供と留学先大学での科目履修等に関する事前の指導を行うことになる。
- (6) 以上(1)~(5)と並行して3年次第2クォーター以降4年次終了時までの何れかの時期に、1-2 セメスター(2-4 クォーター)で**交換留学**を行い、受入先大学で取得した単位を、単位互換制度を通じて持ち帰ってくる。その際通常の科目履修認定に加え、九州大学経済学部には該当科目がない場合でも「**グローバル特論**」として読み代えることで、4年間の在学期間での卒業を可能とする。
- (7) 4年のプログラム修了に向けて、**GProE 論文を執筆**(アカデミック・ライティング)する。この論文は、日本人は英語で、留学生は母国語以外の言語(日本語または英語)で、経済・経営もしくは経済工学の専門に関する研究成果をまとめるもので、その審査は複数の教員により行われる。

### 3. GProE 生が大学院修士課程への進学を希望する場合

GProE 履修生が大学院への進学を希望する場合、当該プログラムが1年次に実施される選抜に合格した履修生だけからなるプログラムであることに鑑み、経済学部・学

府が実施している「学部学府一貫教育プログラム」への参加を認める。それにより GProE 生は、①4年次になると特別な選抜を経ることなく「学部・学府一貫教育プログラム」の共通科目を履修することができ、また②4年次の7月に実施される大学院修士課程入学のための「学部・学府一貫教育プログラム特別選抜」を受験することができる。

こうして、プログラム全体を通じて培ったグローバルな研究力を一層研磨することを希望する GProE 履修生には、大学院経済学府への進学が大きく開かれている。英語での研究を希望する履修生は、大学院で開講されている英語コースを選択することもできる。